

# 12月の県内景況調査結果の概要

## 1. 主要指標の前年同月比DI値の動き

29年12月のDI値は8指標中、「資金繰り」が小幅ながら上昇となった。「販売価格」「取引条件」「雇用人員」においては僅かながら下降しており、その他の指標は横這いであった。

## 2. 県内中小企業の景気の現状

生コンクリート業においては出荷量が増加、板金工事業では受注量が順調、味噌製造業においても約半年ぶりに出荷量が100%を超えたとの明るい声が寄せられた。

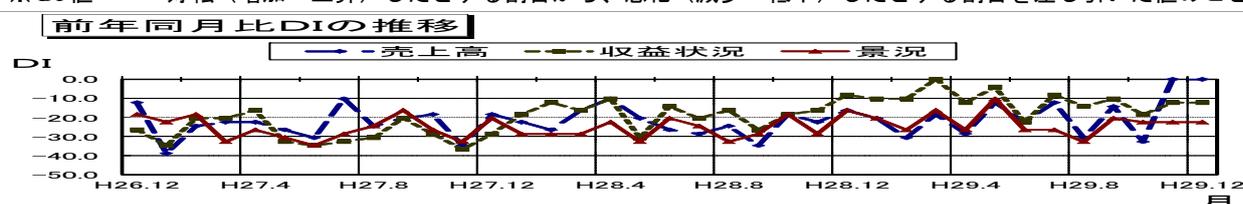
その一方で、12月は期待された年末商戦であったが、売上の伸び悩みに嘆く声が寄せられた。また、依然として続く労働力不足をはじめ、原材料高や軽油価格の上昇も懸念材料となっている。

日経平均株価が26年2ヶ月ぶりに2万4,000円台の高値を記録した事などを背景に、景気は回復を続けていると言われている。しかし、緊迫する国際情勢が国内外経済の下振れリスクを残存させており、先行き不透明な状況に変わりはない。県内中小企業においても、今後の景気動向を注視していく必要がある。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

	H28 12月	H29 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	前月比 増減
景況	-16.3	-20.4	-26.5	-16.3	-26.5	-10.2	-26.5	-26.5	-32.7	-20.4	-22.4	-22.4	-22.4	0.0
売上高	-16.3	-20.4	-30.6	-18.4	-28.6	-12.2	-22.4	-12.2	-30.6	-14.3	-32.7	0.0	0.0	0.0
収益状況	-8.2	-10.2	-10.2	0.0	-12.2	-4.1	-22.4	-8.2	-14.3	-10.2	-18.4	-12.2	-12.2	0.0
販売価格	4.1	6.1	6.1	-4.1	12.2	8.2	-2.0	-6.1	4.1	0.0	10.2	16.3	12.2	-4.1
取引条件	4.1	2.0	0.0	-4.1	-6.1	-8.2	-4.1	-8.2	-6.1	-6.1	-4.1	0.0	-4.1	-4.1
資金繰り	-12.2	-6.1	-6.1	-8.2	-2.0	0.0	-10.2	-6.1	-8.2	-10.2	-10.2	-8.2	-4.1	4.1
設備操業度	-11.1	-27.8	-5.6	0.0	-5.3	0.0	-4.1	-6.1	-8.2	0.0	-6.1	-2.0	-2.0	0.0
雇用人員	-16.3	-14.3	-14.3	-8.2	-8.2	-10.2	-6.1	-4.1	-12.2	-12.2	-18.4	-12.2	-14.3	-2.1

※ DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



## [景況関連の報告]

### 【製造業】

#### <食料品>

1. 味噌・味噌の生産量は、前年同月比99.7%、出荷量は100.3%となった。出荷量は平成29年5月以降約半年ぶりに100%を超えた。しかし、季節的な要因等で増加した為業況が好転したとは言えない。また主要原材料である輸入米の価格も上昇しており、依然としてコスト高。収益面に影響を与えている。

#### <木材・木製品>

2. 製材・売上高増加。収益状況不変。製品の販売ルートにより、売上にバラツキが見られる。
3. 木材・売上高不変。収益状況不変。原木丸太出材量は非常に少ない中で丸太価格は上昇している為、売上は伸びてこない。また、各製材所では合板、その他の需要は旺盛であるものの、供給が追いつかない状況となっている。
4. 木材・売上高不変。収益状況悪化。全国的に人口が集中している大都市に於いては、建材のメーカー販売が顕著で木材が足りない状態。しかしながら、地方に於いては従来と同じで販売量は例年通りか、それ以下である。

#### <印刷>

5. 印刷・期待された年末商戦、クリスマス商戦もそれほどではなかった模様。気忙しい年末となったが景気を牽引するもの、核となる商品も見いだせず売上高減少の厳しい月となった。毎年12月と1月は休みが多く、製造業にとっては売上が上がらない厳しい月でもある。さらなる効率の良い事業活動が求められる。
6. 印刷・例年12月は繁忙期であるはずだが、もう一つ伸び悩んだという声が多く聞かれた。特に徳島県内における受注が伸び悩んでいるようだ。情報伝達を目的とした印刷物はやはり減少傾向にあるのかもしれないが、パッケージ関係はまだ堅調に推移している。印刷用紙の値上がり分、運賃の上昇分を販売価格に転嫁する交渉を今後顧客としていかなければいけないが、承諾してもらえるか不安である。中央会・行政庁への要望事項として、中小企業庁が7月官公庁向けに、官公需法に基づく「平成29年度中小企業者に関する国等の契約の基本方針」を発表した。その中で、「中小印刷会社の知的財産権の保護に十分留意した契約内容とするように努める」という事が明記された。これは印刷物納品時の知的財産権放棄項目を削除するように求めている。今後地方自治体においても、その基本方針を守るようにして頂きたい。

## <窯業・土石製品>

7. 生 コ ン・12月の出荷量は昨年同月比若干増加。一時的に公共工事の出荷が重なったことが要因であると思われる。
8. 生 コ ン・12月の出荷数量は、対前年同月比5%の増加となった。要因としては、既設工事に追加して民間大型工事の新規受注工事が実行された事による。12月の半ばに、大手セメントメーカーが来春4月出荷分より1トン1,000円の値上げをすると発表した。今後の各組合員での収益状況について注視する必要がある。今後の需要の見通しについては、民間での病院設備新設及び大手企業の工場新設、官工事での四国横断自動車道（阿南～徳島東）など新規需要を見込んでいるが、出荷数量は前年をやや下回ると予想される。

## <鉄鋼・金属>

9. 鉄 鋼・業況は概ね横這い状況にあり、売上高や設備操業度などにも大きな変化は見られない。一般的には、企業の生産動向は揺れを伴いつつも緩やかに持ち直しているとのことであるが、依然として景気回復の実感は薄く、先行き不透明感が拭えない。
10. ス テ ン レ ス・売上高不変。収益状況不変。引き続き大手を中心に設備投資が行われているが、中小企業については様子見の状況が続いており、国内外ともに目立った大きな変化はない。

## <一般機器>

11. 機 械 金 属・全体として、売上高や収益状況など良好な水準を維持しており、大きな変化は見られない。一部では、顧客の設備投資増加等に伴う業況の好転が見られるものの、将来に対する不透明感は依然として強く、景気回復の実感に乏しい。また、熟練技術者、従業員の確保難が課題となるなど、引き続き人手不足感が継続している。

## 【非製造業】

### <卸売業>

12. 食 糧 卸・「物は売れず、販売価格下がらず。」供給側の理由で原価が上昇。販売量も伸びず、価格転嫁ができない状況である。

### <小売業>

13. 機 械 器 具・年末と言いながら業況は変わらない。購売時期が掴みにくくなっている。

14. ショッピングセンター・10月、11月ともに対前年比100%以上を確保してきたが、12月は全店計96.5%（既存店97.9%）と前年を割った。12月の第1週目では102.5%と好調であったものの、クリスマス以降は84.4%であった。年末は徳島市内や北島町、藍住町にある大型商業施設に客が流れたと推測される。娯楽施設を持つ大型商業施設に歯が立たないことを痛感する。普段の営業においていかにお客様に満足して頂くかという事と、正月等の大型連休以外の日をどのように営業するか考えなければならない。
15. プロパンガス・売上高増加。収益状況悪化。ガスの保安の確保と業界の工場発展、保安活動等に関する周知文書とカレンダーを顧客や組合員企業に配布。ガスを安全に使用してもらうように努め、収益状況の好転に繋げていきたい。
16. 電気機器・12月は省エネタイプの暖房器具やエアコン、LED照明関連、洗濯機等の買換え需要が順調である。4Kテレビへの買換えはもう少し先になりそうである。
17. 畳小売業・売上高減少。収益状況悪化。前半までは荷動きがあったが、後半以降は注文量が減少し、設備操業度も20%程低下。一般家庭の需要も前半ぐらいまでにほぼなくなった。

#### <商店街>

18. 徳島市・年末の明るい雰囲気は全く見られず厳しい状況であった。ただ、早めの歳末セールを実施した事により売上は昨年並みであったものの、全体的に客足の鈍い年の暮れであった。
19. 徳島市・売上高不変。収益状況不変。高齢化により1店舗が廃業となった。
20. 阿南市・クリスマスイベントを実施したものの、業況は不変であった。

#### <サービス業>

21. 土木建築業・売上高不変。収益状況不変。12月は、改築工事や維持修繕、橋、トンネル補修工事、交差点改良工事等補正予算の工事の発注及び工事、業務発注の資料作成を行う。改築工事では、四国地方整備局発注工事を分割し、分任官工事として発注することとなり、工事件数が多くなった。また、補正予算の工事発注もあり多忙である。維持修繕、橋、トンネル補修工事でも、当初予定工事の発注が多く、補正予算でも工事要望箇所が多くあり、多忙である。ただ、工事金額は減額になると思われる。交差点改良工事、電線共同溝、視距改良工事においては、工事量は昨年と変わらず工事件数は少ないものの、来年度の事業計画を前倒しで作業している。工事金額は前年度より増額になると思われる。
22. 自動車販売整備業・登録自動車（普通車）の新車登録台数は対前年同月比+0.4%の1,347台、中古車は+4.1%の460台、合計では+1.3%の1,807台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比+2.1%の1,078台、中古車+6.2%の360台、合計は+3.1%の1,438台である。登録自動車（普通車）・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比+2.1%の3,245台であり、登録自動車（普通車）、軽自動車ともに前年同月とほぼ同じぐらいとなった。一方、点検整備などのサービスに関する収益状況は、普通車は1割近く悪化となった。
23. 旅行業・売上高、収益状況に変化はなかったようだ。
24. 広告業・売上高増加。収益状況好転。業況は不変であったものの、今後の見通しはやや良い。

## <建設業>

25. 建設業・相変わらず公共工事の発注が遅れており、県下全域で受注量が減少している。11月末現在の徳島県の公共工事発注は対前年比15.6%の減となり、厳しい状況である。
26. 解体工事業・売上高増加。収益状況好転。公共工事については12月にほぼ完了しているが、民間戸建ての工事については昨年並みとなっている。県内全般では工事の発注は斑模様であり、発注件数も少ない状態であるが市街地においては発注件数は好調に推移している。
27. 板金工事業・仕事の受注は順調であるが、人手不足の状態が続いている。
28. 電気工事業・業況は不変であったものの、新設住宅口数は258件であり対前年比102.3%と微増。

## <運輸業>

29. 貨物運送業・一般貨物輸送は取扱い業種により異なるが、全般的に前年同月並みで推移。ただ、生鮮野菜は10月の天候不順により量的には減少。軽油月間平均単価は前月比1円強上昇した。年間平均では前年比約9円の上昇となり、今後の単価上昇如何では大きく収益が圧迫される。
30. 貨物運送業・売上高不変。収益状況不変。燃料価格が上昇している。青果では、夏・秋頃の天候の影響などで出荷量が少なく、事業者にとって大きな痛手となっている。宅配においては、通信販売などの輸送量が多く、例年通りの繁忙期となっている。